序　　文

阿波学会会長　小　林　勝　美

平成24年度阿波学会総合学術調査は東みよし町（旧三加茂町）で，７月28日～８月５日までの10日間を中心に，15学会100名前後の会員で実施されました。この調査は阿波学会にとっても，昭和大合併で誕生した50ヶ市町村の最後の町となり，会員一同気を引き締め，勇気をもっての現地調査となりました。

旧三加茂町は平成大合併で，旧三好町（平成５年調査）と合併し東みよし町となり，文化財では国・県指定や町指定の宝庫の町で，古くから，東の石井，西の三加茂と言われ，県内の先進地でありました。特に，歴史民俗資料館をいち早く建設し，文化・歴史や文化財への啓蒙活動や資料館を利用するなどしての住民の意識の高い地域となっています。

阿波学会の結団式には東みよし町長・川原義朗様はじめ，教育関係者，文化財保護審議会委員の方々の御臨席をいただき，また，地域の歴史愛好会の出席も多く，盛大に開催することができました。当日は地域の歴史や文化を知ると言うことで，平成24年度に徳島県指定文化財となりました「上月（こうづき）家文書の世界」と題して，徳島県立文書館課長補佐，徳野隆氏（地方史研究会代表）から，内容の解説を含めて御講演をいただきました。

阿波学会も発足以来，先輩達が三大目標を掲げた，現地調査，発表会，紀要出版のもと努力を積み重ねてまいりましたが，その60年近くをふり返って見ますと，発足期の10年間は研究発表が中心でありました。昭和40年代（1965～）になり，新産都市指定で，市町村の景気高揚と行政組織の確立，徳島県でも県史編纂（へんさん）事業が，県立図書館を中心に実施され，資史料収集，目録づくり，研究者の育成等が推進されました。一方，明治100年の記念事業として，各市町村史の編集も活発化し，地方史研究が活況を呈し，地域史への関心と意識が深まりました。その流れは阿波学会の学術調査にも大きな影響とともに発展し，昭和50年，60年代へと受継がれて充実期を迎えました。しかし，平成時代になり，社会情勢は大きく変貌し，少子高齢化や過疎化が進行，社会の変革とともに，政治経済も停滞に拍車がかかり，失われた10年と言う流行語まで生まれる社会現象となりました。結果として，県や市町村行政に行財政改革が断行され，緊縮財政は継続し今日に至っています。この影響で阿波学会にも多くの問題点が浮きぼりになりました。中でも，会員の高齢化や若い研究会員の入会不足等が起こり，調査参加への不可避は脱会の危機となりました。この後継者不足は前途多難の状況となっております。その現状の中でも会員一人ひとりの責任感や使命感で，今日まで継続されてきたことには大きな喜びであります。何はともあれ，50ヶ市町村の総合学術調査が終了できたことに安堵と達成感を満喫しているところであります。

最後になりましたが，総合学術調査で東みよし町（旧三加茂町）の教育委員会生涯学習課の課長様はじめ，課員の方々には現地調査での連絡調整，結団式，発表会等での会場設営で大変御世話になり，阿波学会としても成果の多い学術調査になりましたことに感謝申し上げます。